

沖繩作戰
ニ於ケル

海上挺進

第二十六戰隊史 實資料

(附部隊履歷及個人功績)

昭和二十二年三月二十五日

第三十三軍殘務整理部

海上挺進第二十六戰隊戰鬪經過概要

一 昭和三十二年三月二十一日 三月二十五日

三月二十二日米軍機隊全島に於て航空機隊の攻撃を受け

三月二十四日より海軍部隊も参加し航空機隊の攻撃を受け

戦隊は秘密情報未だ完成しなから三月二十五日より兵器の秘密は重要

な期に各所を掃蕩す

三月二十四日米軍機隊の攻撃開始以後陸軍部隊は海岸に上陸す

際、能成地ニシテ同ノ攻撃の秘密地ニシテ未だ秘密情報未だ完成

せず容易に知れり可也。当海岸線ハハ米軍機隊の攻撃を受け

二等ノ状態ニシテ依り戦隊長は種々の掃蕩を以て米軍機隊の

戦隊全員舟艇と共に玉砕す。米軍機隊は陸上ニ戦力ヲ献じ

て首の戦隊全員を布告す。依り戦隊員ハ米軍機隊の海岸に上陸

用は對し萬全に処置す。構へり。

一 四月一日 四月六日

四月一日至五日米軍機隊の攻撃を受け

同海岸津アット情報接又依々戦隊の報告あり
舟艇整備萬全ヲ期ス
可動舟艇増加日々増加又此間船地状況偵察多ク介候ヲ
敵次派遣ス

四月八日

二日夜ニ至リ四月八日夜半ヲ期シ嘉手納米軍船地ヲ偵察スル
受ク依テ三三〇時ヲ期シ嘉手納米軍船地ヲ偵察スル
第一中隊ハ未滿一慶長間一嘉手納一第六中隊未滿一全隊
一那覇一嘉手納一第三中隊未滿一慶長間一戦没中
嘉手納各経路ニ依リ進行スヘキ作戰ヲ四月八日三三〇時ヲ戰隊
隊出撃ス

是レヨリ先米軍於テハ陸軍ニ於テハ船地偵察隊ハ多ク察知セリ特
完備ニ諜報機關ヲ通シテ敵隊ノ攻撃方法ヲ偵察シ備兵力兵
器機能等尙カク戦隊駐屯地ヲ察知セリ又偵察ニテ出撃ニ
於テ戦隊長以下ノ諸君言語ヲ絶シ特ニ直海軍ニハ夜間米軍

ノ小艦艇ニ依リ警戒又照明彈ニ依リ警戒等時ニ敵軍ヲ極力
タリ当夜戦隊ハ第三中隊長岸本貞少尉以下ヲ敵ノ機銃ヲ
タリ多ク大ノ戦果ヲ擧ゲタリ以テ戦果ノ報告ハ当夜那覇市北方地
警備ニアリン第六中隊団ノ中隊長ヨリノ報告ニ依リタリ
即チ輸送船約一〇隻連艦掃海艇等約一〇トノ報告ヲ受ケタリ又
当夜米軍参加ル戦隊員自撃したレヲ調査シタル結果中隊長ノ
報告ニ依リ一隊シテタリ

四月九日一四月十四日

四月八日夜半ヨリ九日朝ニ至テハ此間ニ依リ多ク偵察者ヲ至
テ尚残余ノ舟艇兵力ヲ以テ次期作戰ヲ期シ舟艇整備ニ全力
ヲ致セリ

而シテ此間米軍ノ空軍機體ニ依リ攻撃ヲ一日ニ數回ニシテ機體
意ノ多クテラス等々黎明ニ利用シ空中ニ飛行機地上ニ艦艇
艦ヲ着ク聞キテ作業ス

四月十四日一四月十五日

第三次出撃ノ命令ヲ同夜受テ第一回出撃作戰ニ依リ中隊
又小隊組ノ單位ニ依リ攻撃ヲ行フ可クシテ體驗ニ依リ隊長ハ各個攻
撃ヲ命令ス。後々各中隊ノ戰隊員ハ一艇ノ内ハ各個ニ攻撃スルノ
計畫ス。ニモ口頭ヨリニ四ノ時頃ニカケテ約二ノ可動舟艇出撃ス
第一回ノ出撃ニ依リ戰隊ノ出撃地ヲ見入ルニ察知セル米軍ノ
警戒ハ第一次出撃ニモ増シテ出撃ノ困難ヲ増大セリ
照照明彈ヲ度ケ艦艇ノ爆音ヲ聞キソノ幾度トシテ砂地ニ身を
伏セ海中ニ身を匿シソノ出撃ヲ完了ス

當戰ニ於テハ第三中隊馬場林男曹長以下ノ犧牲者ヲ出セシ戰果
駆逐艦其他小艦艇約七ノ戰果アリ

四月十六日 四月十九日

第一次第二次出撃ニ依リ舟艇モ多ク損失シ戰隊員モ多ク散
失者ヲ出セリ。サレト高殘命ノ戰隊ノ兵力ヲ以テ第三次出撃
ヲ期シテ待機ス

戰隊ノ駐屯ヲ察知セル米軍ハ同夜戰隊ノ駐屯地ニ對シ攻撃シ

四月二十日

末ニ此間舟艇若干ヲ破壊燒失尚戰隊員中ニ犧牲ヲ出ス
最後ノ攻撃ヲ期シ準備中ナリ。戰隊ノ數度嘉手納洋米軍
艦船狀況偵察ノ任候ヲ出シ最後ノ攻撃ヲ遂行セント構ハス

四月十九日夜第三次出撃ノ命令ヲ受テ舟艇ニ戰隊員ニ數度ニ於
テ攻撃ニ盡力シ第三次ニ於テハ最後ノ努力ヲ盡シ

同夜戰ニ第三次同様各個攻撃ヲ行ハシ各個ノ出撃ヲ行
可動舟艇約一ノ戰果驅逐艦其他小艦艇約四ヲ獲テ

四月二十日 四月二十一日

第一次第二次ニ相シテ出撃戰隊ニ無難若シト命令ヲ出シ且
戰隊員ニ多ク犧牲者ヲ出セルモ志氣益々旺盛ニシテ戰隊
員一團大期命令ヲ待ソ

四月二十七日ハ同前ニ依リ陸上第一機師隊ニ参加スル等
入隊ニ至リ且戰隊員ハ海上部隊ニ先遣スル等アリ
戰隊員ハ戰隊員長以下一團第一中隊第一中隊ハ第三中隊

戦隊本部副官以下、一部並ニ第一中隊ハ第陸軍師団ニ夫々五月
以降配属シ挺身隊トシテ挺身連絡ニ任スルコト、命令ニ據テ
依テ四月三日戦隊全員ハ本場ニ集合スル事、第二十四、第六十二師団
ニ配属スル夫々地上第一線ニ参加セリ
五月一日—五月二日

第六十二師団ニ配属スル一部ハ第三中隊長 田辺少尉指揮ノ下ニ
五月一日より第一線部隊ニ参加セリ 即チ田辺少尉以下約十三名ハ
独立歩兵第三大隊本部附トシテ大隊長指揮ノ下ニ第一線部隊
斗地区ナリシ阿波奈、前田線ニ於テ挺身隊トシテ挺身連絡ニ任ス
又野田見習士官以下、約八名ハ第六十三旅団司令部附トシテ若里市
多平町ニ在リ、当地ニ挺身隊トシテ挺身連絡ニ任ス
又立本見習士官以下、約八名ハ独立歩兵第三大隊ニ配属トシ
若里市北方郊外ニ在リ、挺身隊トシテ挺身連絡ニ任ス
斯ル第六十二師団ニ配属スル戦隊本部一部、第二中隊長カハ五月
一日ヨリ直接地上戦ニ参加スル班長、小隊長トシテ奮戦ス

此間逐次犠牲者ヲ出ス 最初独立歩兵第三大隊附トシテ田辺少尉
以下八澤岨ニ於テ五月十五日前後ヨリ、第六十四旅団司令部附トシテ旅団
長指揮ノ下ニ戦斗ニ参加ス
他方第三十四師団ニ配属スル第一、第三中隊ハ残存者ハ道々ニ
歩兵第三中隊ニ配属スル一部ハ工兵隊又ハ砲兵隊ニ配属スル
第二十四師団ニ配属スル戦隊長以下ハ当初高島原郡ニテリタルニ
爾後逐次第一線若里北方ニ前進シ小隊長又ハ分隊長トシテ
轉込連絡ノ任ニ當リテアリタリ

五月二日—五月三日
此間ハ若里市最後、大防衛戦ニ戦斗ハ激烈ヲ極ム
第六十四旅団附トシテ田辺少尉以下ハ多平町ニ在リ野田見習士官
以下約八名ハ第六十三旅団ニ在リ当初多平町ニテ戦斗セルニ據テ
大ニ歩旅団後退ノ止ムコト到リ若里市ヨリ約ニ軒南下ス
立本見習士官以下八名ハ砲兵第三大隊ニ在リ若里最後防
衛隊トシテ戦斗ス

特首里郊外ニ於テ激戦ニ又軍首里後退ニ於テ八島最後戦ニ在リテ米軍ノ包圍下ヲ脱出セリ
他方第三師團配屬ノ戦隊長以下八弁ノ苦ニ於テ大戦ニ参加小隊長分隊トシテ戦斗其ノ勇ヲ失ヒ第三師團ノ首里後退後ハ島尻郡糸満附近ニ在リテ第三聯隊ノ再編成ニ入レリ
六月一日―六月十日

第六十四旅団ニ在リタル田辺少尉重傷ヲ負ヒ後方野戦病院ニ収容シテ戦隊副官トシテ有藤少尉以下五名ハ其ノ休第六十四旅団司令部附佐野見習士官以下五名ハ歩歩第三大隊ニ新シク配屬サル一應津嘉山ニ集結セル軍司令部ハ第三師團第六大隊ニ在リ各兵團ハ一舉ニ島尻郡南端ニ後退ス佐野見習士官以下五名ハ歩歩第三大隊ニ在リ小隊長分隊長トシテ連絡又ハ斬断ニ在リ津嘉山最後ノ戦斗ニ従事米軍ノ退路遮断下ノ方面ニ於テ戦斗ヲシテ後退東凡平ニ止リ軍ノ最後尾トシテ戦斗ヲシテ遂次南下ス

六月十一日―六月二十日

此間ニ於テ軍ノ殆ント島尻郡南端ニ集結最良ノ戦斗ニ従事ス然レ共海陸空ノ立体的攻撃物凄ク犠牲ハ教増ス一方先ニ前田首里ノ戦斗ニ参加シ島尻郡ニ於テ新陣地構成中ナリシ第三聯隊ハ島尻郡ニ於テ第一線トナリ其ノ後ニ第三師團ノ陣地(第三線)アリタリ

第三聯隊ニ在リタル戦隊長以下ハ極メテ小教ノ兵力ヲ以テ米軍ノ攻撃ヲ防グ尚甚ク先第一線ノ戦斗ニ於テ重傷シ島尻郡各城ノ野戦病院ニテ先第一中隊長富田中尉以下約十五名ハ重傷ノ身ヲ其ノ後ニ戦隊残存者ノ戦隊基地隊残存者ヲ以テ部隊ヲ編成名城北方真榮里ニ進出最後ノ戦斗ヲ實施ス
斯クテニ西師團ニ配屬サシ戦隊長以下ハ殆ント戦死セリ
尚大工師團ニ配屬ナリシ有藤少尉以下五名ハ本西旅団司令部附佐野見習士官以下五名ハ第三大隊附野田見習士官以下八名ハ第六十三旅団司令部附立本見習士官以下八名ハ第三大隊附ハ夫々戦死

勇敵ノ犠牲者ヲ出シテ後島尻南端ニ於テ差三線即チ最後ノ陣地ニ據ル
部隊トシテ戦斗シテ第三師團ノ後ヲ受ケテ其ノ殆ニト戦死セリ
六月三十一日以降

沖繩本島ニ於テ戦斗ハ六月二十日前後ヲ以テ略々終了セリ即チ日本
軍ハ全碎セルナリ

然レ共モ小敵ノ生存者アリ各地形ヲ利用シ遊撃戦斗ヲ實施ス
此レヨリ先軍司令官ヨリ島尻南端戦斗ニ於テ生存者ハ斬込ヲ敢行
シテ北方國頭地区ニ突入被殺セヨトノ命令アリ
生存者中ハ命令ヲ實施セズ其ノ殆ニト斬込中ニ戦死セリ
戦斗生存者ハ十名内外ニシテ終戦マテ各地ニ於テ遊撃戦斗ヲ敢
行シテリタリ

終戦後未軍ニ收容セラル

一 部隊ノ履歴概要ノ沖繩戦闘ニ付

一 昭和二十一年十一月一日

本島東江田島ニ於テ部隊編成司令部勅令第一〇四六号

固有部隊 第一連隊第二十六大隊

編制番号 戦十一九七六号

二 同年同月二十日

本島市宇留港出発在地位沖繩島ニ向テ途中ノ島

嶺ニ渡リ島嶼ニ寄港

三 同年十二月十四日

沖繩島西方物田十望ニ渡リ同島ノ東部戦線ニ

上陸ス以後同島ニ在リテ戦斗準備ニ當ルキ事

四 昭和二十一年一月一日一 昭和二十一年二月三日

此ノ間ニ慶良間島ヨリ逐次本島ニ向テ進軍スニ付三日

ヲ以テ完了

戦隊本部——沖繩島島尻國司ニ駐屯

中一隊 一 " " 前隊四二
 中二 " 一 " " 各隊二
 中三 " 一 " " 各隊二
 一隊隊本隊 一編成

戰隊長 陸軍大尉 足立健五
 副官 甲 " 少尉 奇藤 岳
 " 乙 見習士官 竹 蓮藏
 曹長 奇藤 功 曹長 野口 次郎
 " 原田 三男 " 早川 義雄
 " 吉川 圭二 " 西山 次郎
 軍曹 野原 芳房 軍曹 久司 博茂
 中隊本隊 以上十一名
 中隊長 陸軍中尉 官田 順行

指揮班長 曹長 中川 広
 軍曹 大橋 公平
 中隊 野田 三郎 曹長 石原 三郎
 " " 曹長 吉谷 義雄
 " " 曹長 原田 正
 中二隊 中川 一春
 中隊本隊

中隊長 陸軍中尉 田辺 晃平
 指揮班長 曹長 出口 健藏
 軍曹 橋本 二郎
 中隊附 見習士官 橋本 二郎
 " " 曹長 野田 耕平
 " " 曹長 立本 彌夫
 " " 曹長 佐々木 五郎

中三中队

中队本部

中隊長 陸軍少尉 岸本貝郎
指揮班長 曹長 松家健吉

軍曹 足島 經

伍長 松本要一

中队附 見習士官 森田三郎

無漏田数書

〃 〃 漢永 鑛

五月一日—五月十五日 后部隊 独立中三三入隊本部附

五月十六日—六月一日 后部隊 六五森林团司令部付

六月一日— 終戦 見習士官 佐々野正徳 曹長 出口比呂

軍曹 植木二郎 同 田島義次郎 同 船越茂男 務定

伍長 松立平三 大隊本部付 他八全三 佐々木ノ知ク

六十四森林团司令部附アリ

中二中队

見習士官 野田耕平 曹長 巴谷一四 田中 啓也 軍曹

松澤 野田 同 島津 照二 同 上 海軍 九回 隊付 一次 同

中付 正一 伍長 鶴田定雄 以上 后部隊 六十三森林

司令部付

中二中队 見習士官 志本 彌次郎 曹長 徳永三忠 曹長 河上

久治 軍曹 木下 信三郎 同 曹長 川正次郎 同 福岡

政勝 同 小寺 傳 同 村上 正一 伍長 倍保 政春 以上 〃

后部隊 六五森林团 独立中二二入隊付

中一隊長 中尉 富田 順行 〃 津羅 津邊 船橋 軍司令部付

六月一日 後 隊隊長 〃 下二 後 隊付

以上ノ知テ天々配属ス

一戰半完成場所

一 昭和十九年三月二十三日—昭和十九年四月八日

戰隊本部 平糶 泉島 辰野 眞榮 軍

中一中队

〃

〃

國吉

才二年隊

才三年隊

各隊

各隊

以上ノ隊員等ニ於テ夫々ノ才力等ノ長短ニ依リテ各隊員ニ在リ
出陣準備ニ適宜ナリトシ

昭和十九年四月九日早朝ヨリ豫平初平本陣發給指示
及陣ノノ取隊全編

昭和十九年四月十日以後同年四月十四日正午時敵隊員
各往ニ陣線發給海面全般ニテ出陣同地海面地区ノ本陣
艦艇ニ対シ攻撃ス

昭和十九年四月十六日ヨリ同年四月二十日正午時ニ於テ戰平
次期出陣時期ニテ舟艇整備始メ上ヨリ本陣艦艇始メ敵
隊行隊等ニ在リ

昭和十九年五月一日以後敵隊全員地上戰平ニ參加夫々之陣線
先ニ於テ戰平完成ス
中德波濤軍七部隊取降ノ報

昭和十九年五月一日以後同年五月二十六日

首里市西井方陣線方面

同年四月二十七日—同年六月一日 津嘉山附近

同年六月二日—昭和十九年六月十八日

島原縣國土、津嘉、津嘉波野田附近ニミテ戰平

昭和十九年六月十九日以後十月二十日津嘉島原各地方ノ本

陣線方面ノ侵入ニ對シ戰平ノ完成ス

石部隊取降ノ報

昭和十九年五月一日—同年四月二十六日

首里市北方之陣線 鹿田一井向一隊發給指示

昭和十九年五月十四日—同年四月二十二日

首里市北方三ノ陣線方面附近

昭和十九年五月二十四日—同年四月二十九日

首里市 多比良所

昭和十九年五月三十日—同年六月四日

佐々野見留士官以下佐々中二十二大隊宛、敵の侵襲
に附近

昭和十九年五月三十日—同年六月一日

田辺少尉以下六四隊用本部所、津島山附近

同年六月二日以後

沼田少尉以下八島原郡喜屋敷附近

同年同月四日以後

佐野見士以下八島原郡糸洲附近

同十九隊野田見士官以下、敵

昭和十九年五月一日—昭和十九年五月二十二日

首里市多比良町

昭和十九年五月二十三日—昭和十九年五月二十九日

首里市南方二軒地名不明附近

昭和十九年五月三十日以後

島尻郡南端山城附近

山本中隊長本見留士官以下、組

昭和十九年五月一日—同年同月三十一日

首里市多比良町附近

昭和十九年六月一日以後

島尻郡名城附近

昭和十九年五月一日ヨリ同年同月二十九日まで

首里市以後、戦隊長ト同行勦

戦隊員ハ以テ、場前ニ於テ既ニ先ニ地上戦ヲ實施

シ、二夜間ハ敵名ヨリテ種々編成シテ、本陣陣地ニ侵

入シテ斬込ニ戦斗ヲ行フ

六個人、均シク戦死ス

一戦隊員ハ均シク戦死ス

是、甲乙七等ニ分類スル者アリ

昭和十九年四月九日嘉平沖津米軍攻襲に於て駆船隊一ヲ
更ニ一攻襲軍況ナリ

昭和十九年五月一日一周年同日三十四日駆船司令部付
同年六月一日以降駆船隊長足立大尉ノ下ニ復職待ニ
六月二十日前後ノ夏業里附近ニ於ケル戦事ニハ中隊長トシテ
激戦ノ陣頭ニ立テ奮烈ナル米軍砲撃下ニヨク其任ニ
堪ヘ米軍ノ攻襲ヲ阻ヒナリ

中二中隊長 陸軍少尉 田辺是平

一 戦隊編成當時ヨリ教育部内ヲ擔當戦事遂行ノ為基
礎教育英ノ他ニ盡カス

昭和十九年十一月十四日慶良間島上陸ノ際ニ於ケル戦隊舟艇
ノ破壊整備ニ當リテハヨク戦隊長ヲ補佐シ多年ノ経験
ヲ採用シ戦隊兩翼ノ為ニ致セシ貢獻ハ最も大ナリ

昭和十九年四月九日ヨリ同年同月十五日、間ニ於テハ沖繩西支
海面ニ二回出陣待ニ二回目、攻襲ニ於テハ軍中米軍駆逐艦ヲ
追跡及直航逐艦隊果實ニ発見ナシ多数ノ手榴彈機重彈
ニ中ニ受テ重傷ヲ負ヒタルモ不的攻襲ヲ敢行終ニ目的ヲ
完遂シ此レヲ喜ビヌ

昭和十九年五月一日以後右部隊駐立ナシ本部附更
ニ六十四旅団司令部付トシテ各々隨處先ニ於テ大隊長旅
団長、信賴ニ受命ニ負ヒヨク斬込ニ連絡ノ任ヲ完シ終ニ
兩度ノ重傷ヲ受ケナリ

中三中隊長 陸軍少尉 岸本具郎

一 中三中隊長トシテ戦隊長ノ補任ニ在リシマタ下級部下
指導教育ニ任ズ

昭和十九年四月九日嘉平沖津米軍艦船泊地ヲ攻襲
輸送船六隻、他多数小船艇ヲ悉數破壊シ艦ト共ニ自
爆ナリ

副官 陸軍少尉 斎藤清

(一) 戦隊副官トシテ直接戦隊長ヲ補佐戦隊編成時ヨリ
沖繩戦斗ニ到ル間ヨリ戦隊ノ戦斗任務完遂ノ爲ニ
貢献ス

(二) 昭和十九年五月一日以後田辺少尉ト共ニ石部隊ニ配
属短立中ニ十三人隊内六十四枚団師司令部付トシテ夜
間断込ニ挺進連絡ノ任ニ当リ時ニ六十四枚団長ヨリ
ノ信望厚ク最後迄敢闘長ノ例進ニ終テ行動ヲ體共
ニセリ

夏間士官 掛谷義雄

(一) 昭和十九年四月九日嘉手納沖米軍艦船泊地ヲ攻撃
艇ト共ニ目標ノ多大ノ戦果ヲ擧ゲテ

夏間士官 井川一春

(一) 昭和十九年四月九日嘉手納沖米軍艦船泊地ヲ攻撃
ト共ニ目標ノ多大ノ戦果ヲ擧ゲテ

夏間士官 野田新平

(一) 昭和十九年四月九ヨリ同年同月二十五日ニ致ル間ニ同
沖繩島西方海面ニ土島十二回ニ於テハ米軍艦艇艦
ヲ攻撃シテヨリ甚大ノ戦果ヲ擧ゲテ

(一) 昭和十九年五月一日以後石部隊六十三枚団司令部付トシ
同ニ西田少尉ノ後進連絡断込ニ當リヨリ任務ヲ完遂
セリ

夏間士官 無瀬田敏信

(一) 昭和十九年四月九日嘉手納沖米軍艦船泊地ヲ攻撃シテ
多大ノ戦果ヲ擧ゲテ

曹長 香藤 功

一 戦隊オチ官ノ先任者トシテ下級者ノ付屬望ヲ受ケマシ
ヨリ指導ニ任シ戦隊ノ人事其他一般事務ニ當リ
威ナカニメタリ

曹長 小川 山

昭和十九年四月九日嘉平納沖水軍艦船泊地ヲ攻真海
防艦ニヨリ重沈ス

昭和十九年五月一日以後右部隊畑立チ二十三大隊本部附
六十四旅団司令部附トシテ香藤少尉ト行動シ其ニシ
断ガシ尉ヲ補任 挺進隊員ノ面目ヲ如何ナク發揮セリ

曹長 志免 正之

軍曹 菊地 泰

那須 繁

弓岡 春己

経塚 健吉

佐藤 真

馬場 秋男

高山 良雄

軍曹 河崎 美則

伍長 松本 要一

内山 光男

以上公昭和十九年四月九日嘉平納沖水軍艦船泊地ヲ攻
泊地ニ突入船ト共ニ自爆ヲ敢行シ烈ナル戦死ヲ遂ゲシ
多大ノ戦果ヲ擧ゲ挺進隊ノ任務ヲ完遂セリ

曹長 宮野 鉄男

昭和十九年五月一日以降山部隊中三十二聯隊ニ配属シ
隊長ノ小隊長トシテ地上戦中ニ終始各ニ挺進断ハシ
ハ吉野市北方郊外水軍陣地内ヲ南ニ面シ及喜多ノ
ノ戦果ヲ擧ゲ特ニ五月十日戦死セルモ其ノ最後ノ瞬
間ニ於ケル曹長ノ態度ハ朝部トシテ正ニ鑑鏡トスル
ニ足ル

曹長 出口 巖

昭和十九年五月一日以降山部隊中三十二聯隊ニ配属シ
隊長ノ小隊長トシテ地上戦中ニ終始各ニ挺進断ハシ

下付時ヨリノ信譽ヲ受ケテ以テテ範トスルニ足リル
一昭和十九年五月一日以降石部隊任仕オ二十三大隊本部附
六十四隊団師令部附任仕ニ十二大隊本部附トシテ各
部隊長ヨリノ信譽ヲ受ケテ以テテ隊長日買ノ人格ノ行動
ヲ指察ニテ余リアリ

曹長 榎 正男

一昭和十九年四月九日嘉平納平大早艦船船場ヲ攻襲
駆船艇一ヲ击沈セリ

曹長 田平 雄飛督

一田原第一責任觀念取捨ニテ積極的ニ軍務ニ奮勵
特ニ下級者ノ指導ニ意ヲ用キ中隊長小隊長ヲ補佐シ
戦半半鐘ニ満全ヲ期ス

一昭和十九年五月一日以降山部隊ニテ新隊ニ配属シ隊長
トシテ地上戦ニ参加進道新トシニ六月二日四ノ大ナル戦
果ヲ擧ゲタリ

軍曹 石原 三郎

一昭和十九年四月九日大早艦船部隊ヲ襲キ納平ニ攻襲シ
中隊長富田中尉ト同死戦 奮進艦ヲ一ヲ击沈セリ

軍曹 池田 義次郎

一日本海艦隊内ニ軍務ニ精勵 責任觀念取捨等ニ隊長
中隊長小隊長ヨリノ信譽ヲ受ケテ積極的ニ軍務ニ奮勵
一昭和十九年五月一日石部隊任仕ニ十二大隊六十四隊団任仕
オ十二大隊ニ配属新トシ進路等ニ任カテ積極的ニ奮闘ス

伍長 鍋田 茂雄

昭和十九年四月十五日洋艦五隻西方海面へ米軍一隊泊地
及時海防艦一隊出動

在長崎後方

「日軍常ニ獲獲の二軍務ニ精勵ニ勉ムル國若使、之ニ
際ニテモ野望ノ色ヲ見ズヨリ、」
昭和十九年五月一日石部隊艦士二十二入隊艦士トナリ地上
艦士ニ參事スルヤ分隊長トシテ前進新以前進連絡、任
「此ノ時ニ軍ノ首里後退ニ際シテハ最後尾トシテ最後近首
里中ニ留守、軍ノ前進完了ナリ有利ニ入日下後退ナルニ
當リテハ巨艦タル米軍陣地内ヲ全上ル所ヲ避テ候ニテ敢行
大膽部ニ重傷ヲ負クタルニ不的意ニ有セズ後退後モ
更ニ分隊長トシテ最後近首里ヲ完ルセリ」

以上ノ戦隊員中特ニ顯著ナルモノナリ米軍半籠島ニ上陸
後ノ日々に戦斗ハ激烈ヲ極メ戦斗員ノ姿者ハ正ニ空想ニ絶
スルモノアリタリ、毎ニ戦隊員ニ於テハ前後三回ヲ通シテ、

出陣ニ於テ前記セル如ク多大ノ戦果ヲ擧ゲタリ
出陣ニ際シテハ照明彈ヲ墮地、重砲等ノ猛砲下ノ中ヲ奮々ナル
惡條件ヲ受テ敢行ス戦隊員ノ出陣ニ於テハ、前進連絡
更ニハ艦船内進、攻真實施等ニ於テ如何ニ戦後ハ接
推シテ知ルズナリ、五月一日始メ部隊ニ配属後ハ接
進新以ニ前進連絡ヲシ、主要任務トシテ石部隊ニ配属
セルカニ中隊長田中少尉以下ノ常ニ第一線部隊トシテ米軍
ト近接戦斗ニ終結ス

阿波茶ノ中隊カ、戦斗ナラズ天候、首里、嶺、山、南
見原ト常ニ砲臺ヲ控テ、砲彈庫所ノ間ニ於テハ前進連
絡ヲ全クシテ、科學兵器ヲ利用シテ、砲臺、陣地ヲ完結シ
テハ前進戦斗ニ終結ス、前進隊ノ任務ヲ如何ナク完結セリ

又一方山部隊ニ配属セル戦隊長足止屋上大尉以下ハ地上戦ニ
参加ノ初期ニ於テハ挺進連絡挺進新隊ニシテ果シテ在下隊ニ折返ルニ
米軍首領ニ近接セルニ及ビ口首領下中隊四科ノ命ヲ盡クシテ
部隊トシテ近接戦ヲ實施ス米軍ノ猛烈ナル爆撃砲轟ニ
山嶽ハ一旦日ト変形致シ行ク状況ノ中ニヨク最後挺進隊ニ抵抗
ヲ敢行セリ後退ヲ余儀ナクナレト軍ハ半鐘島南端部ニ於
テ最後ノ抵抗ヲ實施ス此ノ時我ガ戦隊員輕傷者ヲ數名ナ
リタル伊敷ノ飯谷所ニ愈々危機ニ墜タルニ致リ又依ッテ戦隊
長ハ全員ヲ率ヒ悲壯ナル決意ノ下ニ真樂里台ニ於テ一戰
ヲ交ヘクモト員傷ヒタル身コイツテ同台ニ陣地ヲ構ルニ
最後マデ戦ヲ實施シ全員略死致セリ
以上ハ半鐘島ニ於ケル戦斗状況ヨリ戦隊員全々功績ニハ相
異ノ長ヲ見出セズ甲申ノ判明ハ出来ズ

以上